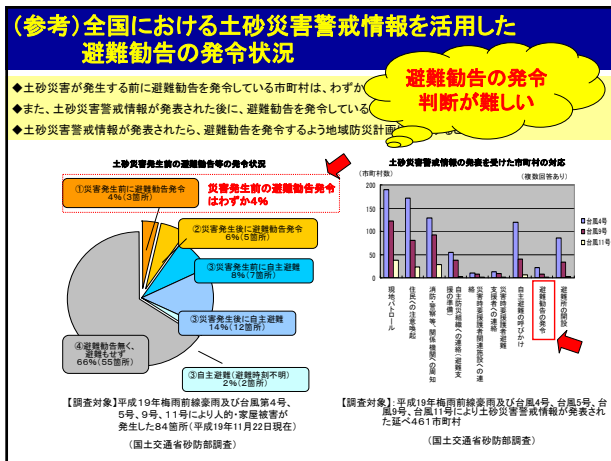
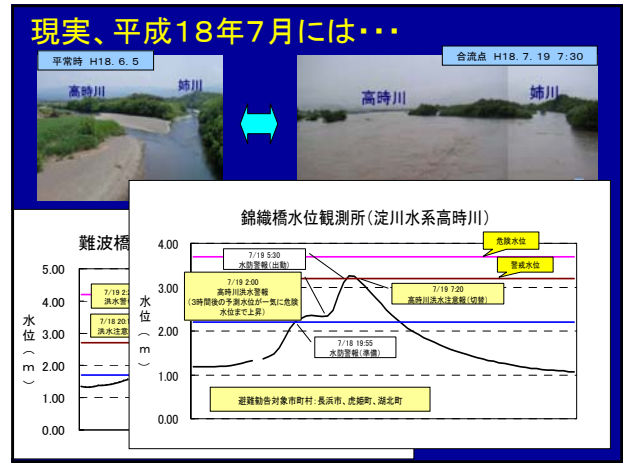
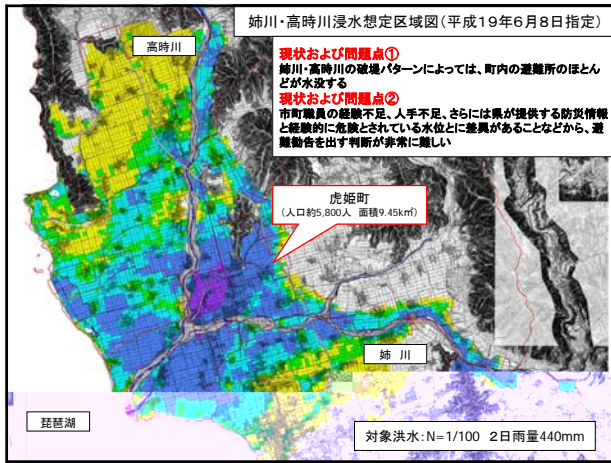


湖北圏域水害・土砂災害に強い地域づくり協議会における

広域避難の検討について

滋賀県土木交通部 河港課・流域治水政策室

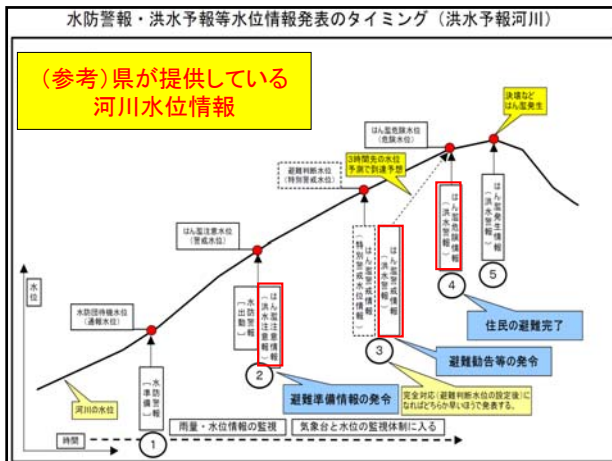


解決しなければならない課題

市町界を超えた広域的な避難が必要

①市町が避難勧告をするにあたって、発令の判断をしやすくすること
(避難勧告をしやすくする)

②市町界を超えた避難所、避難ルート、的確な災害時要援護者支援ができるようにすること
(市町界を超えた避難)



湖北圏域 水害・土砂災害に強い地域づくり協議会を発足

- 湖北2市6町、国、学識経験者、県関係各課で組織
- 構成
協議会（副市町長、京大防災研、琵琶湖河川事務所長、県関係各課長）
実行委員会（関係機関の担当者レベル）
- 協議経過（平成19年度）
協議会 2回（H19年11月1日、H20年3月25日）
実行委員会 6回（H19年6月1日、8月31日、11月1日、12月19日、H20年1月21日、2月18日）

協議会での技術的提案(19年度の成果)

- 課題①(避難勧告をしやすくする)
 - ★ 避難勧告判断のための支援資料
 - ・ きめ細かい河川防災情報の提供(水位観測所がない要注目箇所の水位の相関表)
 - ・ 破堤パターンごとの浸水の広がり、利用可能な避難所の位置確認
- 課題②(市町界を超えた避難)
 - ★ 各市町の避難所を相互利用できる協定
 - ★ 長浜ドームを広域避難所として利用
 - ★ 北陸自動車道(バス停、PA)の活用を要望

きめ細かい河川防災情報の提供

OO川はん濫警戒情報等(川全体として発表される)

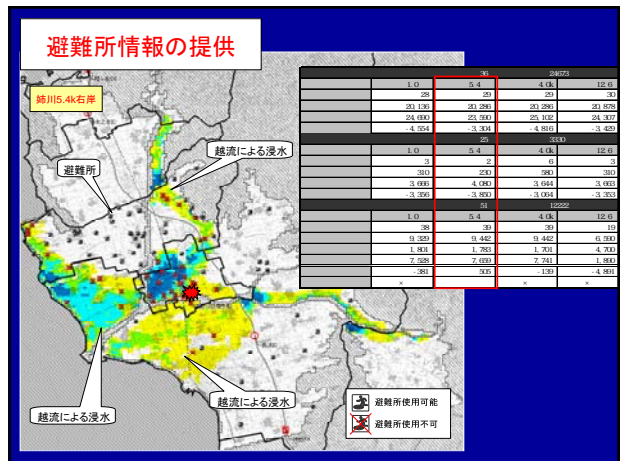
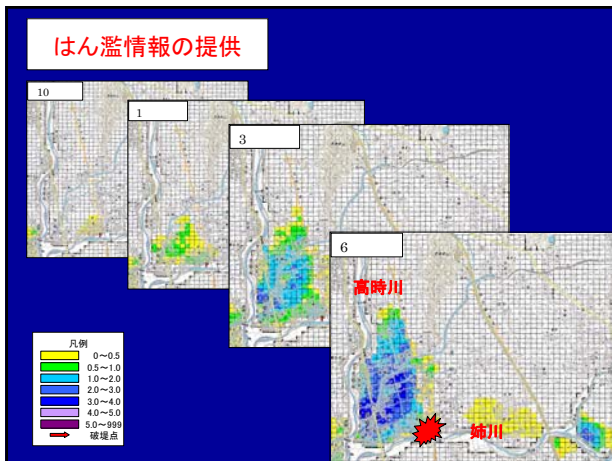
現況
- 地元は継続的な協議会を推進している
- はん濫警戒情報等は、①番目のメッシュ箇所の水位情報により当該河川全線へ発表される

課題
- 避難勧告等発令にあたり、精度向上が必要(発令のタイミング、発令対象エリアの設定)
- 上流から下流まで体系立てて整理する必要がある

提案
- はん濫警戒情報等①番目のメッシュ箇所対象
- 複数②番目、③番目のメッシュ箇所と発令対象区域情報
- 地元が把握する継続的危険箇所と発令対象区域情報

情報の体系的な整理
地区別のきめ細かい危険度表示指標の設定
地区別の避難計画の策定

各危険箇所の水位は、近傍水位局と相関性を特たせる(水位相関表の作成)



県立長浜ドームの避難所利用

約10km

長浜ドーム

面積: 10,200㎡
アリーナ: 8,880㎡
観客席: 1,762席

ハザードマップへの記載

災害時応援協定
(隣接市町の避難所活用)

長浜ドームへの避難

虎姫町洪水ハザードマップより

民間企業等との協力体制の確立

活用事例

- 静岡県 基本協定 (SA内施設の提供)
- 中央自動車道 (緊急車両用出入口の設置)

隣接する町道

北陸自動車道

活用方策(案)

- ①バス駐車場の一時避難所活用
- ②PAやSAの避難所活用
- ③自動車道本線への緊急乗入れ
- ④雪水用監視カメラの洪水時活用

バス停への階段

現時点での評価および今後の展望

- 広域避難につながる河川防災情報の提供
- 京都大学防災研究推進特別事業との連携
- WGによる避難行動計画シナリオ(案)の検討

↓

実際の避難行動につなげ、人々の命を守る!

広域避難ワーキング(H20.10.22)

【新たに参加】
町の福祉担当、町社会福祉協議会
災害時要援護者施設

【新たな課題】

- ・要援護者施設への情報伝達方法の確立
- ・要援護者の搬送能力の確保
- ・要援護者の受入先の確保